

新たな気持ちで学校生活を始める4月。学級は、子どもにとって安心して学習や人間関係づくりができる学校生活の基盤です。当番活動や係活動を活性化することにより、よりよい学級への意欲を高めるとともに、子どもの言葉に耳を傾け子ども理解を努めることにより、子どもと教師の良好な関係を築きたいものです。慌ただしさの中でも子どもと触れ合う時間を大切にして、充実した学級づくりを始めましょう。



<小学校>

知ることが関係づくりの第一歩
「他者紹介」でにっこり！

クラス替えがあってもなくても、子どもたちはそれぞれ新しい気持ちで教室に入ります。

自己紹介をさせたいけれど、苦手な子も多い。そんなとき、「他者紹介」はどうでしょうか？

- ①隣の児童とペアになります。
- ②お互いに自己紹介します。
シートに簡単なメモをして
おくとよいでしょう。
- ③次に、前後のペアで、4人組
をつくります。
- ④相手のペアに、自分のペアの
紹介をします。交代して、「他
者紹介」していきます。
- ⑤最後に、全体でシェアリング
をしてもよいでしょう。

《Point!》

- ☞ 3～5分間で。
- ☞ テーマがあると話しやすい。

<例>

- ・得意なこと、好きなこと。
- ・頑張りたいこと。
- ・クラスでやってみ
たいこと等、プラスのイメージで！

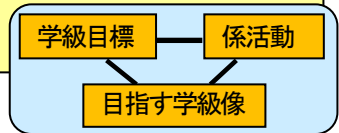
自分のプラス面を
友だちが話してくれる
のは、うれしいもの
です。不安が減り、
自信が増します。



思いや願いを学級目標・係活動に！

入学・進級をし、子どもたちの学級への新たな思いや願いが漂う4月は、よりよい学級づくりを子どもと共に進める絶好のチャンスです。

- 1 学級への思いや願いを出し合い、学級目標を考える際には、「なぜ、そういう学級にしたいの?」と問い返しましょう。学級のよさや課題を見返す機会となり、「目指す学級像」を明確にしながら学級目標を設定することにつながります。
- 2 係活動を考える際には、「学級目標を達成するためには、どんな係があればいい?」と投げかけましょう。学級目標を視点に評価し改善できる係活動を構想することにつながります。



子どもの思いや願いを起点に、目指す学級像と学級目標、係活動をつなげ、学級づくりのPDCAサイクルをつくりましょう。



<中学校>

心に留めておきたい生徒理解の要
～耳で聞き、心で聴く～

教師と生徒の信頼関係は、日頃の接し方や言動でつくられます。コミュニケーションで伝わる内容は、言語的内容30%、非言語的内容70%とのこと。生徒の言葉を聞くだけでなく、醸し出す雰囲気からもメッセージを理解することが大切です。

聞く：耳に音の感覚を生ずること。
聴く：注意深く耳を傾け、相手の気持ちを理解すること。

【ポイント】

- ・仕事中でも手を休め、話す生徒の表情を見て聴く。
- ・話の腰を折ることはせず、生徒が伝えたいことを受け止めながら、まずは最後まで聴く。
- ・あいづちを打つなど受容的な態度に心がけ、温かな表情で聴く。
- ・話してくれたことに、感謝の気持ちを伝える。



話してよかった…安心した。

片付いていないバケツから考える

清掃が終わった教室へ行くと、バケツが片付いていませんでした。どうしてでしょうか。

- ・誰がバケツを片付けるか明確になっていない。
- ・バケツが片付いていないことに気付かない。
- ・片付けるべき人が片付けていないことを友だちに指摘できない。
- ・バケツが片付いていないことに気付いても、見ぬふりをしている。



このように、原因はいろいろ考えられます。授業後の黒板がそのままである、給食後の配膳台が汚れているなど、教室環境が整っていない場面では、原因をよく考え、それを踏まえた指導によって学級集団を育てていく必要があります。

当番や係などの仕事分担を明確にする、気を利かせて行動している生徒の姿を取り上げて認め、教室環境に配慮できる雰囲気をつくるなど、生徒自身が教室環境に心を配っていく集団を目指しましょう。